

畜産マネジメント (2 単位)

担当者氏名 谷口信和・信岡誠治

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

畜産 (酪農、肉用牛繁殖・肥育・養豚・採卵鶏・ブロイラー) に関する包括的なマネジメント理論の中程度のレベルを概観し、全体的な枠組みの理解を得る。

その上で、酪農からブロイラーに至る畜産の個別部門ごとの基礎的な理論的フレームワークを把握するとともに、日本における実態を踏まえて課題と解決方向を示す。

また、食料消費が飽和点に達しつつある中での畜産物消費の今後の見通しや課題についても検討する。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

畜産	生産管理	原価管理	販売管理
財務管理	食料消費	畜産物消費	食料自給

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	畜産マネジメント体系	・畜産マネジメントの体系的な理解を得る	基本的には事前にテキストや文献・資料を受講生に渡すので、それらの予備的な学習を踏まえて講義に臨むことが期待される。 講義は一方向的な説明ではなく、質疑の繰り返しという双方向の形式で行い、受講生のディスカッション(ディベート)能力の向上をも目指すことにしている。
2	畜産の生産管理論	・生産管理における畜産の特質を明らかにする	
3	畜産の原価管理論	・原価管理における畜産の特質を明らかにする	
4	畜産の販売管理論	・販売管理における畜産の特質を明らかにする	
5	畜産の財務管理論	・財務管理における畜産の特質を明らかにする	
6	酪農マネジメント(1)	・酪農マネジメントの理論的フレームワーク	
7	酪農マネジメント(2)	・酪農経営の実態と課題	
8	肉用牛マネジメント(1)	・肉用牛マネジメントの理論的フレームワーク	
9	肉用牛マネジメント(2)	・肉用牛経営の実態と課題	
10	養豚マネジメント(1)	・養豚マネジメントの理論的フレームワーク	
11	養豚マネジメント(2)	・養豚経営の実態と課題	
12	採卵鶏マネジメント(1)	・採卵鶏マネジメントの理論的フレームワーク	
13	採卵鶏マネジメント(2)	・採卵鶏経営の実態と課題	
14	ブロイラーマネジメント(1)	・ブロイラーマネジメントの理論的フレームワーク	
15	ブロイラーマネジメント(2)	・ブロイラー経営の実態と課題	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

受講生の状況を見ながら適宜選択し、配布 (場合により購入) する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

酪農大事典／農文協／2011 年、肉牛大事典／農文協／2013 年、草地・飼料作物大事典／農文協／2011 年

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポートまたは講義中の質疑応答による。

◆オフィスアワー

毎週月曜日の 10:00～11:45 に研究室にて相談に応じる。

◆その他受講上の注意事項